

SOI Asia プロジェクト 2003 年度報告書

慶應義塾大学三川 莊子

平成 16 年 9 月 18 日

Copyright Notice
Copyright (C) WIDE Project(2004). All Rights Reserved.

第1章 SOI Asia プロジェクト

1.1 概要

SOI Asia プロジェクトは、衛星を利用したインターネット基盤を使って、アジア諸国の高等教育に貢献することを目的としている。衛星を利用したインターネットを利用することにより、物理的に高速なケーブルの引きにくいアジア諸国の島々にも比較的広帯域なインターネット基盤が構築可能である。本プロジェクトで後置した遠隔高等教育環境を利用することで、アジア地域でのリアルタイム講義やアーカイブ講義の共有、その他の様々な教育プログラムが実施できる¹。

本プロジェクトの遠隔高等教育環境を利用して、2003年1月現在までに6つのコースを含む54の授業を行い、延べ60名以上の講師が本環境を利用して講義を行った。これらの講義の中にはインターネット関連だけではなく、パートナーサイトからの要求に応じて行った東京海洋大学からの講義も含まれており、SOIでこれまで経験し、蓄積してきたインターネット関連以外の講義への本環境の適用の可能性が確認された。

以下に、2003年度に SOI Asia プロジェクトの遠隔高等教育環境を利用して行われた講義やイベントに関して報告する。

1.2 ブラビジャヤ大学向け授業

2003年4月29日には、慶應義塾大学理工学部気か工学科開放環境科学専攻の植田利久教授から”Introduction to reactive fluid dynamics”の授業が行われた²。本講義は、慶應義塾大学理工学の The Graduate School of Science and Technology International Graduate Programs on Advanced Science and Technology³で行われている授業を SOI Asia プロジェクトの環境を利用してアジア各国に配信する試みの第一歩として行われた。

1.3 IT 戦略本部向けデモ

2003年7月2日には、Interactive discussion on “Interactive Distance Education” という題で、各国の SOI Asia スタッフと慶應義塾大学環境情報学部村井純教授との間で、本遠隔高等教育環境を利用した将来的な展望を議論した⁴。本イベントでは、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス・インドネシア共和国のバンドン工科大学・ラオス人民民主共和国のラ

¹SOI Asia プロジェクト 2002 年度報告書 <http://www.soi.wide.ad.jp/soi-asia/publications/>

²<http://www.soi.wide.ad.jp/class/20030000/slides/02/intro.html>

³<http://www.st.keio.ac.jp/index-e.htm>

⁴<http://www.soi.wide.ad.jp/soi-asia/publications/20030702/>

オス国立大学・マレーシアの Asian Youth Fellowship 及び HELP Institute・ミャンマー連邦のヤンゴンコンピュータ大学・フィリピン共和国の Advanced Science and Technology Institute が中心的なサイトとなって議論を進めた。プログラムを表 1.1 に示す。

表 1.1: プログラム内容

時間	内容
16:30-16:45	Introduction of each site. ITB, NUOL, AYF/HELP, ASTI
16:45-17:00	Keynote by Prof. Jun Murai
17:00-17:40	Presentations from partners
17:00-17:10	Dr. Armein Langi, ITB/Indonesia
17:10-17:20	Mr. Nouk Somsanouk NUOL/Laos
17:20-17:30	AYF,HELP/Malaysia
17:30-17:40	Dr. Maria Lurenda Suplido / Open University, Phillipines
17:40-18:10	Discussions
18:10-18:25	Closing, Greatings from each site

本イベントはビデオ会議ソフトウェアである VIC(Video Conference) / RAT(Robust Audio Tool) を利用して行い(図 1.1、同時に複数サイトの様子を閲覧しつつ議論を行った。

また本イベントでは、IT 戦略会議に参加する小泉首相内閣総理大臣を始めとし(図 1.2)、細田科学技術担当大臣、遠山文部科学大臣、西川経済産業副大臣、亀井農林水産大臣、片山総務大臣、安部官房副長官等が見学した。



図 1.1: VIC/RAT 画面



図 1.2: 首相訪問の様子

1.4 ブラビジャヤ大学セミナー

2003年10月9日には、ブラビジャヤ大学で Seminar International 2003 “The Future Of Indonesian Technology” が行われた⁵。本セミナーはブラビジャヤ大学で、主な参加サイトは奈良先端科学技術大学院大学と慶應義塾大学であったが、その他 SOI Asia のパートナーサイトからも遠隔参加があった。プログラムを表 1.2 に示す。

表 1.2: ブラビジャヤセミナープログラム

時間	内容
10:30-11:30	”Code Division Multiple Access(CDMA)” 慶應義塾大学理工学部 中川 正雄 教授
15:30-16:30	”Here comes the BIG WAVE: IT & Internet” 奈良先端科学技術大学院大学 山口 英教授

本セミナーはブラビジャヤ大学が主体となって行ったものであり、学生サイトとして構築したパートナーサイトも、インターネット基盤が発達すればいつでも発信サイトとなれることが証明された。特にインドネシアのパートナーサイトでは、大部分がインドネシア語で行われた国内のセミナーに SOI Asia の環境を通して参加することができたため、反響が大きかった。

1.5 Advanced Topics for Fisheries and Marine Science II “Fish Diseases and Health Management”

2003年10月29日・11月13日の両日には、日本漁病学会からの講義シリーズが行われた。表 1.3 に講義内容を示す⁶。

これまで SOI プロジェクトでは、インターネット工学に関する講義シリーズのリアルタイム授業の実施やアーカイブ授業の蓄積を行ってきた。漁業に関する本授業シリーズは元々 SOI Asia プロジェクトのパートナーであるインドネシア共和国の Sam Ratulangi 大学からのリクエストで”Advanced Topics for Fisheries and Marine Science” という題材で 2001 年度に始まった授業であり、これまで SOI プロジェクトで行ってきた分野とは異なる分野での授業である。このような他分野の講義シリーズの本遠隔高等教育環境での継続的な実施は、本環境を利用した授業が他分野へ適用可能であるという実証実験に繋がる。今後も漁業分野だけではなく、幅広い分野における本環境の適用が求められると考える。

⁵<http://www.soi.wide.ad.jp/soi-asia/event/20031009-brawijaya-official/>

⁶<http://www.soi.wide.ad.jp/class/20030032/>

表 1.3: 漁病学会授業リスト

ID	日時	内容
第 1 回	2003 年 10 月 29 日	"Opening lecture and greeting" 東京海洋大学 青木 宙教授
第 2 回	2003 年 10 月 29 日	"Disease problems in prawn farming" 宮崎大学 伊丹 利明教授
第 3 回	2003 年 10 月 29 日	"Genetic linkage maps and QTLs associated with viral disease resistance in fish" 東京海洋大学 岡本 信明教授
第 4 回	2003 年 11 月 13 日	"Disease problems in fish farming" 東京大学 若林 久嗣名誉教授
第 5 回	2003 年 11 月 13 日	"Immunological control for fish diseases" 日本大学 中西 照幸教授

1.6 まとめ

2003年度は、2004年度のプランニングを行っていたため、目立った活動はなかった。2004年度は各大学における単位互換を目指した講義シリーズを複数行う予定である。また、2002年度に行った”Advanced Internet Technology”講義を通して評価した学生を日本に招聘し、日本の大学の学生と共同研究を行う予定である。その他、本環境を講義だけではなく、留学プログラムやツイニングプログラムへ適用し、より効果的な教育プログラムの提案を行う予定である。